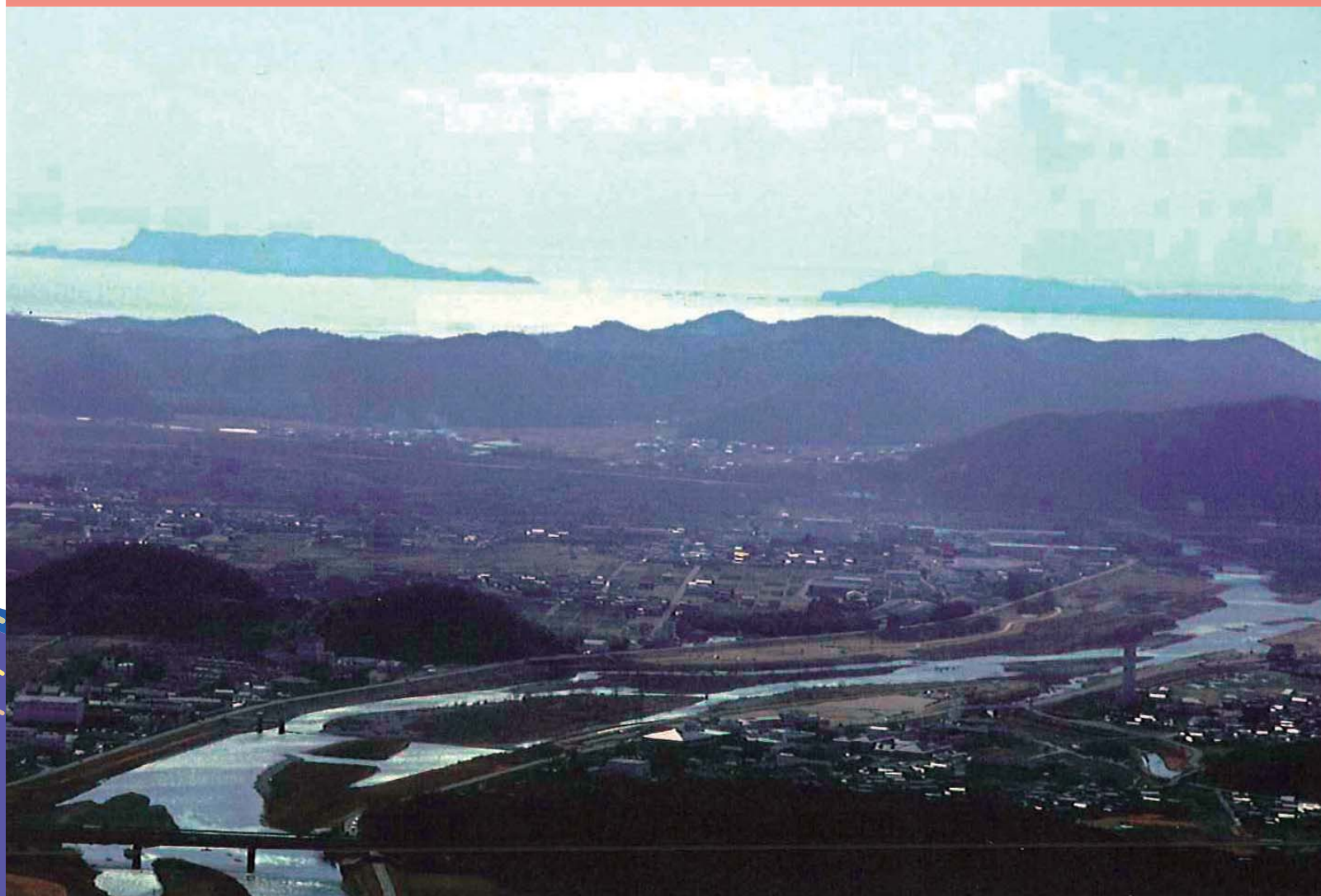


# いぼがわせせらぎだより

このニュースレターはホームページでもごらんになれます。

<http://www.iboriver.jp/>



## 現地見学会【山と林業の現状】

去る11月21日(水)の第23回揖保川流域委員会終了後、流域委員会のメンバーの皆さんと宍粟市の山地状況について現地視察に行ってきました。山と川は密接に関係しており、森林の整備の大切さについて確認することができました。



▲視察状況



▲下草のほとんどない土壌

## 宍粟市の森林状況

宍粟市の山地は市域全体の90%(6,400ha)を占め、このうち75%(4,800ha)が人工林です。人工林で植林後16～45年経過した森林において、一般に「荒れている」と考えられるものは約50%程度となっています。平成16年の台風23号では、宍粟市で山崩れや倒木が発生しました。倒木が川に流れ込み、橋などに引っかかると洪水をうまく流すことができなくなり、河川がはん濫するなどの危険が生じます。

## 良い森林にするためには手間が必要

植林してよい森林に育てるには、1,000m<sup>2</sup>あたり3,000本程度の苗木を植え、樹木が育つにつれて150本程度になるように間伐する必要があります。しかし、山の所有者だけでは木の世話を十分にできないのが現状で、森林ボランティアなどの話もすすめられています。また後継者を確保するために山に道をつくり搬出路を整備し、大型機械で効率的に作業できる環境を整えるなどの対策もすすめられています。

## 林業の採算性

林業の採算性は悪く、機械化等により人手を省く方法が求められています。間伐材のチップ化や集成材への利用等もありますが、コストが高いという問題があります。林業では、採算性がとれるような仕組みづくりが必要ですが、なかなか難しいのが現状です。

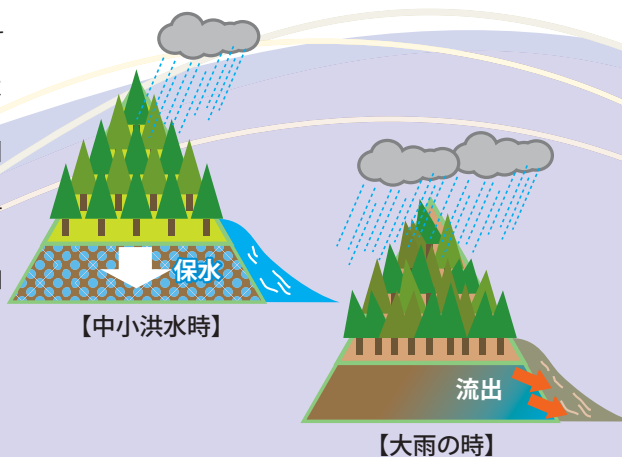
## 「緑のダム」による治水・利水機能の代替について

国土交通省では、森林の果たす役割(緑のダム)について次のように考えています。

- ◆森林は、中小洪水に一定の効果を有するものの、治水計画の対象となるような大雨の際には森林域からも降雨はほとんど流出します。
- ◆森林の増加は、樹木からの蒸発散量を増加させ、むしろ、渇水時には河川への流出量を減少させることが観測されています。
- ◆従って、必要な治水機能の確保や利水機能の代替を森林の整備で対応することは適切ではありません。

また、日本学術会議答申※においても森林の水源かん養機能(洪水緩和機能等)の限界について同様の指摘があります。

※)日本学術会議  
人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関 (<http://www.scj.go.jp/> 参照)



## 今号の主な内容

- 揖保川のこれからの川づくりに関する説明会  
> 意見概要の報告
- 第23回揖保川流域委員会  
> 審議内容の報告
- 山地と林業の現状現地見学会
- こんにちは、委員です。  
> 流域委員会メンバーの紹介  
～家永 善文 委員

たつの市揖保町にお住まいの 井上浩邦さんの投稿写真

- 【撮影場所】 的場山山頂より瀬戸内海を望む
- 【撮影時期】 2006年1月
- 【コメント】 毎年、空気の澄んでいる1月に同所に登りますが、撮影した2006年は瀬戸内の島々がよく見えました。海から蒸発した水分が山に雨として降り、川を流れた海に戻る、自然の営みを感じられ、いつ見ても感動を覚えます。

## 表紙の写真を募集しています！！

あなたの写真で「揖保川せせらぎだより」の表紙を飾ってみませんか？

プリントした写真と右記の内容を明記したものを揖保川流域委員会の庶務あてに郵送してください。なお、応募写真は未発表のものに限らせていただきます。ご応募いただいた写真の一部を流域委員会ホームページでも紹介させていただきます。

- ◆ 説明文 (撮影場所、時期など)
- ◆ 住所
- ◆ 氏名
- ◆ 電話番号



※使用させていただく写真の著作権、著作権は委員会に帰属するものとし、応募作品は返却しませんので、あらかじめご了承ください。

【揖保川流域委員会ホームページ】

<http://www.iboriver.jp/>

## 揖保川流域委員会のメンバーを紹介します

こんにちは委員です



家永 善文 委員  
前姫路科学館 館長  
(環境全般)

「揖保川の今昔、そして未来」

私のすむ町には、変わった行事がいろいろあった。

月遅れの七夕に、紙衣や七夕提灯を飾り、そして、翌朝短冊で飾られた竹を川に流した。盆には精霊舟を麦藁で作って、引き潮の時刻に合わせて灯火をつけ、供え物をいっぱい載せて川に流して、「精霊さん」を送った。秋の収穫感謝の亥の子行事でも、数日間担ぎまわった最後の日に火をつけて川に流した。野菜洗い、洗濯、釣り、夏の水浴び等とともに、いろいろな行事が川と関わっていたが、もうそんな行事もなくなってしまった。

たつの市では流し難い行事を復活させている。揖保川流域の各地で、むかしか

ら川に関わる行事がいろいろと行われてきたことであろう。その多くは廃れてしまったのではないだろうか。

昨秋11月に「川原の自然観察会」の月例会に参加した。家族連れの子どもたちは、初めてのあいさつも待たず水辺に集まった。小エビや小魚を見つけたり、石を投げて水切り遊びに興じた。子どもは水が大好きである。また、川原は野鳥や昆虫を観察する優れた場所の一つでもある。

数十年前のような接し方はできないが、安心して近寄れる水辺、美しい水が流れる川、魚が群れ泳ぐ川、野鳥が憩う川をみんなで作り上げたいものである。

## 揖保川流域委員会 庶務

＜お問い合わせ窓口＞

- 【請負者】 株式会社建設技術研究所 中国支社
- 【担当】 竹内、中野
- 【住所】 〒732-0052 広島市東区光町 1-13-20 ディア光町
- 【TEL】 082-261-3805
- 【FAX】 082-261-3740
- 【E-mail】 ibogawa-office@ctie.co.jp





# 第23回 揖保川流域委員会

日時：平成 19 年 11 月 21 日（水）  
午前 10:00 ～ 12:00  
場所：宍粟防災センター 5F ホール

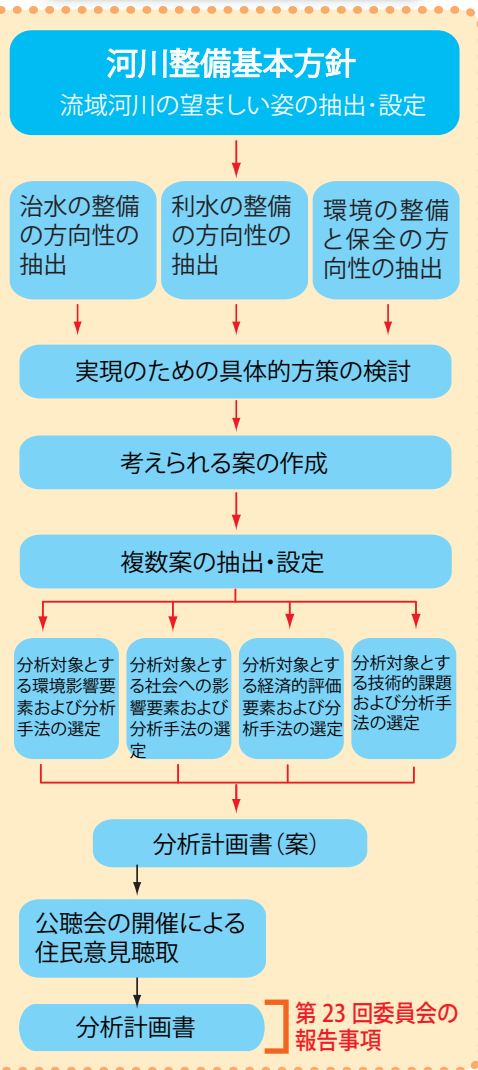
揖保川流域の住民が安全で安心な生活のために、揖保川の河川整備計画の策定を行っています。河川整備にあたっては、事業により環境に与える影響についてあらかじめよく考えておく必要があります。

これまでは環境への影響評価は事業の実施段階に行われることが多く、計画段階では事業費や技術面での検討がほとんどでした。揖保川では河川整備計画策定段階から環境も含めた影響分析を行います。

第23回委員会では環境等影響分析計画書（案）の提案に対する修正・補足の報告がなされました。



## 環境等影響分析のながれ



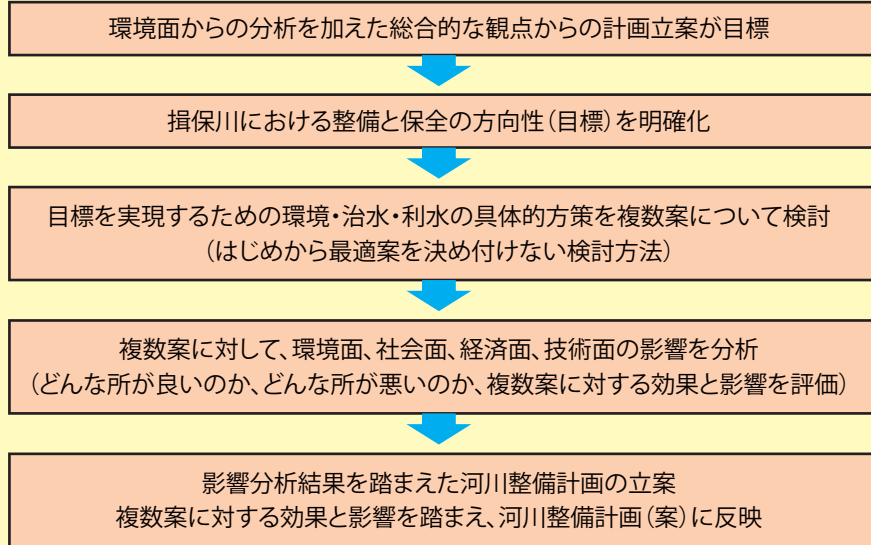
## 今回の議題

前回(第22回)委員会において提示された環境影響等分析計画書(案)の修正点および補足説明



## 環境影響等分析計画書の主な修正点および補足内容

### 環境等影響分析の目的



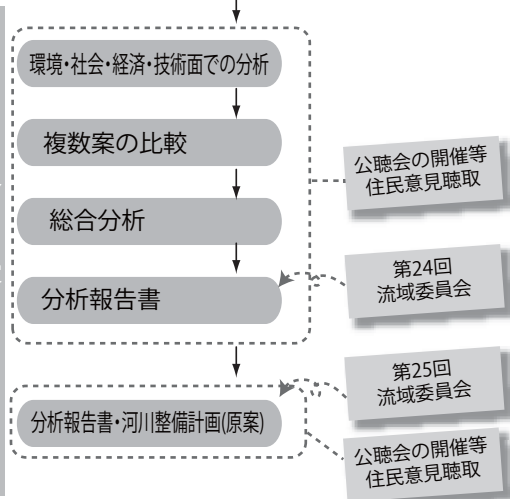
### 過去の流域委員会における目標洪水の考え方と課題

#### 【過去の流域委員会における説明と課題】

- ◆目標洪水の説明  
>昭和47年7月洪水(設定理由:予算規模の制約に応じた洪水を設定)
- ◆課題  
>他水系と比較して目標が小さすぎるのではないかと  
>想定事業費ありきで良いかと  
>住民の理解、合意形成を図れるかと

住民との合意形成を目指して

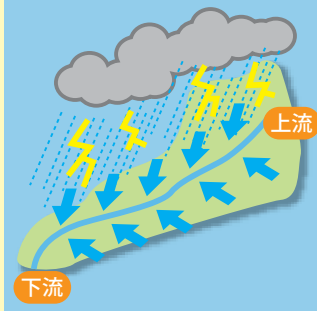
- ◆住民が比較検討しやすい目標洪水を追加  
>多くの人から意見をいただき、幅広く議論できるようにしたい  
>理解していただきやすきたい



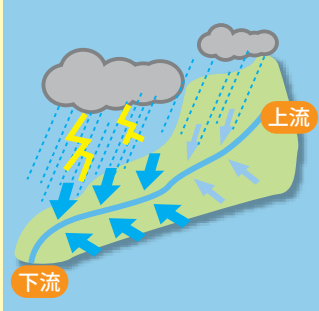
- 公聴会の開催等  
住民意見聴取
- 第24回  
流域委員会
- 第25回  
流域委員会
- 公聴会の開催等  
住民意見聴取

## 目標洪水の考え方

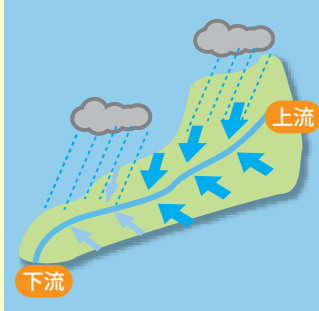
■大規模(戦後最大)洪水  
→昭和45年8月洪水



■中規模で降雨が下流に  
集中して降った洪水  
→昭和51年9月洪水



■小規模で降雨が上流に  
集中して降った洪水  
→昭和47年7月洪水

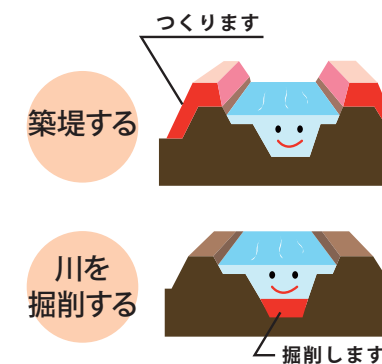


### 選定理由

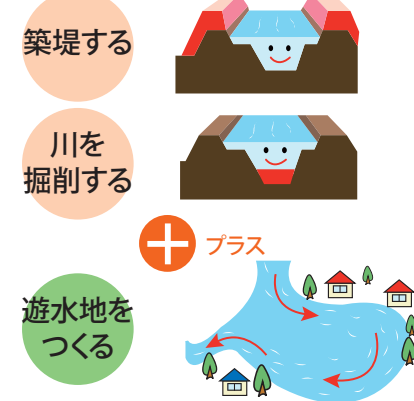
- 住民の方々にとってイメージしやすい実績の洪水を選定しました。
- 上流・下流の多くの方々から意見をいただけるように3パターンの洪水を選定しました。

## 治水の具体的方策の考え方

### 河道対策



### 遊水地+河道対策



### 新規ダム+河道対策



### 分析結果をもとに期待する議論

- 各案のメリット、デメリット
- 治水・利水・環境に対する効果や影響
- 上下流バランスや対策案どうしのトレードオフの関係

### 委員からのご意見

- 土木の専門知識がない場合や洪水の被災体験がない場合に多くの複数案を提示されても理解し難い。各案のプラス面とマイナス面をわかりやすく提示してほしい。
- 住民の意見を一番大事にして最適な方法を選択してほしい。
- 時間、予算がない中でトレードオフの関係について住民に理解していただく必要があり、重点的な箇所を押さえてすすめてほしい。

### 傍聴席からのご意見

- 山林の保水力の問題について対応してほしい。
- 河川事業だけでなく、関連機関と連携した事業を行ってほしい。

## 『揖保川のこれからの川づくりに関する説明会』の結果について

- 去る9月29日(土)～30日(日)の2日間において、3会場(網干市民センター、たつの市はつらつセンター、山崎文化会館)で、揖保川、林田川、栗栖川、引原川の現状と課題について住民の皆さんへ説明を行いました。(162名参加)
- 住民の皆さんのご意見について、河川管理者から5つのポイントが紹介されました。

### ご意見の5つのポイント

- 1 上流と下流のつながりが重要であり、上下流それぞれの双方の住民の方がお互いに川について感心を持ってもらいたい。
- 2 水に親しむことができる場所を整備してほしい。
- 3 山が荒廃し、土砂災害の発生が非常に心配である。
- 4 内水被害に対する対策を進めてほしい。
- 5 市街地部における保水力の維持、回復に努めてほしい。



▲たつの市はつらつセンターでの説明会



▲山崎文化会館での説明会